

シニアネットワーク東北 平成 30 年度活動計画 (案)

2011年3月の東日本大震災と東電福島第一原子力発電所の事故以来、再稼働した原子力発電所は現在8基であり、設置変更許可済6基、新規規制基準へ適合性審査中12基、未申請16基、および廃炉決定済18基であり、未だ完全に復活したとは言い難い。

2018年5月18日には経済産業省資源エネルギー庁の総合資源エネルギー調査会が第5次エネルギー基本計画(案)をとりまとめ公表した。今後は6月17日までパブリックコメントを受け付け、その後内閣の閣議で承認される見通しである。この計画案によれば2030年度目標の電源構成は再生可能エネルギーは22～24%、原子力は20～22%と変わらず据え置かれたままである。着目されるのは2050年度目標の温室効果ガス排出を2013年度比で80%削減することにある。その手法として再生可能エネルギーと水素利用を大々的に取り入れることがあり、原子力は実用段階にある脱炭素化の選択肢で、安全炉・小型炉・バックエンドの開発に着手することを明記している。

原子力発電所の再稼働は進展が遅く、マスコミのネガティブな報道と風評が原子力に対するマイナスの世論を形成したままで、エネルギー供給とセキュリティや温室効果ガス削減の切り札である健全な原子力の利用を阻害している。

シニアネットワーク東北は、地域社会および家庭内のオピニオンリーダーとなる大学生や高専生、および一般の人々との対話活動を重ねて、わが国のエネルギー問題、放射線に対する啓蒙のための活動を行ってきており、今後ともこの活動を継続、強化する方針である。

このため、シニアネットワーク東北は国の施策、自治体の動向、住民意識も勘案しながら今後の対話活動について計画を練り、次の実施項目を基本に東北エネルギー懇談会および原子力学会シニアネットワーク連絡会と連携して推進する。

1. 定期総会および10周年記念シンポジウム 平成30年6月9日(土)開催
2. 対話活動
 - 東北電力新入社員との対話 5月23日(水)実施
 - 大学、高専、一般市民等との対話 (対話先との調整により適宜開催)
 - 新規対話先の開拓
3. 拡大幹事会
 - 原則毎月第4月曜日開催
4. SNW連絡会運営委員会
 - 定例会等への参加
5. 各種講演会、シンポジウム、見学会、勉強会等
 - 前年同様適宜実施：地層処分研究施設の見学会など
6. 提言活動・PR活動
 - HP・インターネット等の活用
 - ネット会員の募集と情報の提供
 - 日本原燃エコスクール(放射線基礎講座、エネルギー講座)、アスパム・エネルギー館主催セミナー等へ講師派遣

以上